

日本の為替担当者は円が対米ドルで 最も上昇すると予想

ブルームバーグ調査によると2016年、円が対ドルで最も上昇するが、年末時点で1ドル=100円を上回る水準を維持するとの見方

【2016年6月29日、東京】—ブルームバーグが為替担当者を対象に実施した調査によると、主要通貨の中で円は2016年に米ドルに対して最も上昇するとの見方が優勢であることが明らかになりました。本日結果が発表された本調査は、ブルームバーグが6月14日に東京で開催したFX16シンポジウムに出席した合計100名を上回るトレーダー、ストラテジスト、企業の財務担当者を対象に実施したもので、現在直面している重要な為替問題について聞いたものです。

調査による主な結果は以下の通りです。

- * 今年、米ドルに対して最も上昇が予想される通貨として、回答者の57%が円を挙げた。スイスフラン(15%)や豪ドル(12%)が対米ドルで最も上昇するとの意見もあったが、ユーロ(7%)、英ポンド(5%)、カナダドル(5%)を予想する意見は極めて少数にとどまった。
- * 回答者の大多数(80%)が、2016年末の時点で1ドル=100~120円と予想しており、残りの多く(17%)は100円を割り込むとみている。
- * 円に最も大きな影響を及ぼすマクロ問題として、回答者の3分の2が米国の利上げと回答した。日銀の資産購入プログラムとマイナス金利を最大のマクロ問題として挙げたのは少数派(16%)だった。
- * コンセンサス(76%)として、日銀が年内に追加の金融緩和策を打ち出すとみている。
- * 日本でビジネスを展開する企業にとって為替市場における最大の課題は為替リスクの管理である(52%)。次に考えられるのは市場ボラティリティへのヘッジであり、業務コストの削減を課題として挙げた人はほとんどいなかった。
- * 2016年の米ドルに対するアジア通貨の見通しについては、コンセンサスは見られず、半数が「やや下落する」、3分の1が「やや上昇する」、残りの大半は「変わらない」とみている。
- * 日本の金融当局による介入が為替市場に及ぼす影響については悲観的な見方が強い。単独介入は有効でないとの見方が大半を占め(55%)、21%が投機的動きを促進することになりボラティリティの上昇につながると予想している。全体の3分の1は、短期的にボラティリティをならす可能性があるともみている。

ブルームバーグ・インテリジェンスの日本担当エコノミスト、増島雄樹は次のように述べています。「投資家はFRBの利上げと中国経済の減速が、円や他のアジア通貨にどう影響するかを懸念しており、英国のEU離脱による先行きの不透明性から、こうした懸念が更に助長される可能性がある。」

ブルームバーグ営業統括の石橋邦裕は次のように述べています。「円は世界で最も大きな通貨の一つであり、ここにきて世界の投資家が日本経済に再び関心を寄せていることから、円に対する見通しは機関投資家層の中で最も重要性があります。今回の調査や世界各地で行っているFX16シンポジウムは、業界関係

者の皆様が一堂に会し、最新の経済見通し、分析ツール、最新技術について意見交換していただくことを目的としています。」

ブルームバーグについて

グローバルビジネス、金融情報、ニュースにおけるリーダーであるブルームバーグは、情報、人、アイデアのダイナミックなネットワークを通じて、影響力のある意思決定者の皆様に決定的な優位性を提供します。ブルームバーグの強みは、革新的テクノロジーを基盤として、データ、ニュース、分析機能を迅速かつ正確に配信することです。ブルームバーグ プロフェッショナル® サービスは、全世界で 32 万 5000 人を超えるユーザーの皆様に、リアルタイムの金融情報を提供しています。詳細に関しては次のリンク先

<http://about.bloomberg.co.jp/> をご覧いただくか [こちらよりデモをご要望ください](#)。

報道関係者 お問い合わせ

ブルームバーグ広報代行: アシュトン・コンサルティング 03-5425-7220

ブルームバーグ広報: 03-3201-8900